



沖縄県小児保健協会 創立50周年記念誌の発刊を祝して

沖縄県知事
玉城 デニー

公益社団法人沖縄県小児保健協会創立50周年記念誌の発刊に当たり、心からお祝い申し上げます。

沖縄県小児保健協会は、復帰翌年の1973(昭和48)年に、沖縄の子どもたちの心身の健全育成に寄与することを目的に創設されましたが、その創設には、沖縄県の抱える特殊事情が大きく関係しておりました。

復帰前の沖縄は戦争の影響もあり、本土と比べ、病院、医師の数が少なく、特に小児科の専門医は県内でも数えるほどしかいない中、復帰が決まると、日本の制度に合わせて市町村主体で乳幼児健診を行う必要がありましたが、離島へき地が多い沖縄では、医師の確保さえままならず、保健医療の地域格差が懸念されておりました。

そのような中、沖縄の小児科医・小児保健に携わる先生方が中心となって、みんなで力を合わせて「集団健診」を行い、沖縄の子どもたちの健康を守っていこうと貴協会を立ち上げられました。それから今日までの約半世紀にわたり、沖縄県内の多くの市町村で貴協会の集団健診が実施されております。

他県における乳幼児健診は、市町村の委託を受けた病院などで行う個別健診が主流ですが、貴協会では、小児科医、歯科医師、臨床検査技師、保健師、看護師、栄養士、歯科衛生士、母子保健推進員等の多職種・専門家チームを市町村に派遣し実施しており、多職種による質の高い健診が県内全域で提供できるスタイルは「沖縄方式」と呼ばれ全国でも注目されております。

また、これまで蓄積された健診のデータは、学術的な分析を経て、沖縄県全

体の子ども達の健康づくり等に活かされております。

他にも、全国規模の学術集会や小児保健関係者の資質向上のための研修会の開催、一般県民への公開セミナー等の実施、調査研究事業の積極的な展開、また20歳まで成長を記録できる「親子健康手帳」の作成を行う等、永年にわたり沖縄県の小児保健の向上に貢献してきました。これらの活動が全国的にも高く評価され、平成2年にはエリエール奨励賞、平成4年には保健文化賞を受賞されております。

貴協会は、復帰後の激動の中で沖縄の未来を築く子どもたちの健康を守り、また小児保健の在り方が時代と伴に変化する中、常に先を見据え、求められる小児保健を提供し続けてこられました。

これもひとえに、会長をはじめ役員並びに会員の皆様の並々ならぬご努力の賜ものであり、その御尽力に敬意を表します。

近年は、少子高齢化、核家族化の進行、人口減少に歯止めがかからない中、児童虐待相談や不登校の件数が過去最多になる等、子どもたちを取り巻く環境はより厳しさを増し、深刻な状況となっております。

子どもの最善の利益を第一に考え、子どもに関する取組みや政策を我が国の社会の真ん中に据えて強力に進めていくことが急務となっていることを受け、国は令和5年4月より設置した「こども家庭庁」と相まって、子ども施策を社会全体で総合的かつ強力に実施していくため、「こども基本法」を制定しております。

今後県では、国が掲げる「こどもまんなか社会」の実現のため、より一層様々な子ども施策に取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、公益社団法人沖縄県小児保健協会のますますの御発展と会員の皆様の御活躍と御健勝を祈念いたしまして祝辞といたします。

2023（令和5）年7月30日



沖縄県の小児保健の向上・発展への貢献に感謝

沖縄県議会 議長

赤嶺 昇

沖縄県小児保健協会創立50周年記念式典が挙行されるにあたり、沖縄県議会を代表し御挨拶申し上げます。

沖縄県小児保健協会におかれましては、平素よりこども達の健やかな成長と小児保健を支える多くの事業に御尽力をいただき、衷心より敬意を表します。

また、本県の小児保健の向上・発展に貢献し、表彰されました皆様、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げますとともに、今後のさらなる御活躍を期待しております。

貴協会は、小児保健活動を通してこどもの心身の健全育成に寄与することを目的に、本土復帰の翌年となる1973（昭和48）年7月に発足され、以来、50年の長きにわたってその大きな職責を果たされてきました。

この間、離島を含む県内市町村の円滑な乳幼児健診の実施、乳幼児健診の実務をわかりやすくまとめたマニュアルや出産・子育てを支える母子健康手帳の編集発行など、沖縄の小児保健事業の重要な役割を担うとともに、健康や生活習慣等に関する啓発活動、課題調査や研究等を通してこども達の健康増進に大きく寄与されております。

一方で、私たちの社会環境は、時代ごとに多様な変化を見せており、少子高齢化や所得格差など社会的な問題に加え、SNS、ゲーム、スマートフォンなどの情報通信の発展は、こども達にも多くの影響を与えております。

小児保健を取り巻く問題は、ヤングケアラー、いじめ、引きこもりなども含め、さまざまな要因が絡み合って年々複雑化しており、貴協会の社会的役割がますます重要なものとなっているところ です。

私たち沖縄県議会といたしましても、行政と一体になって課題解決を一つ一つ前へ進め、こども達の未来を皆様とともに育んでいく所存です。

結びに、沖縄県小児保健協会の更なる発展と会員並びに御参列の皆様のますますの御活躍と御健勝を心から祈念申し上げ、祝辞といたします。



沖縄の子どもたちへの 無限の愛と支援に感謝

沖縄県市長会 会長

桑江 朝千夫（沖縄市長）

公益社団法人沖縄県小児保健協会が、創立50周年の節目を迎えられるにあたり、「こどもが輝く未来への物語～これまでの50年、これからの50年～」をメインテーマに、記念式典が挙行されますことは、誠に悦ばしく、沖縄県市長会を代表して祝辞を申し上げます。

貴協会の皆様におかれましては、1973（昭和48）年7月の創立以来、小児保健活動をとおりして、子どもの心身の健全育成に寄与することを目的に、子ども達が健やかに成長できる環境づくりに多大なるご貢献を賜っておりますことに、深く敬意を表します。また、これまで、長きにわたり、小児保健活動に従事され、栄えある表彰を受けられた皆様方に、心よりお祝い申し上げます。

さて、今日では、貴協会と関係者の皆様方のご尽力により、離島を多く抱える本県におきましても、離島乳幼児健診事業が実施されるなど、子ども達が何処にいても、等しく、健康診査を受けられる基盤が築かれてまいりました。

しかしながら、近年では、生活様式の多様化による対人関係の希薄化、また、格差社会が進行している現状があるほか、本県は、子どもの貧困率が全国と比較して約2倍となっていることや、ヤングケアラーの実態調査が行われるなど、新たに様々な課題が出てきており、子ども達を取り巻く社会環境は厳しさを増しております。

貴協会におかれましては、乳幼児健康診査の実施や、関係者に向けた研修による資質向上、また、一般の方にも小児保健に関する知識の普及啓発活動を行うなど、誰ひとり取り残さない社会の実現に向けた地域社会活動の一翼を担う団体として、これまで以上に存在意義が増していくものと存じます。

我々、自治体といたしましても、貴協会並びに関係機関と連携を図りながら、次世代を担う子ども達が、安心・安全で健やかに成長できるよう、地域社会の環境整備の促進、並びに諸課題の解決に向けて取り組んでまいり所存でありますので、貴協会におかれましては、より一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、公益社団法人沖縄県小児保健協会の限りないご発展と、関係各位の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

※この祝辞は、故・桑江朝千夫様をご存命中に寄稿くださったものであり、そのご厚意に深く感謝申し上げます。



地域と密着した事業を展開し 小児保健活動の推進向上に大きく貢献

沖縄県町村会 会長
宮里 哲

このたびは沖縄県小児保健協会の創立50周年、誠におめでとうございます。町村長を代表して心よりお祝いを申し上げます。

また、小児保健事業に携わる関係各位におかれましては、多年にわたり沖縄のこどもたちの未来を拓くために幅広い活動を積み重ね、本県の小児保健活動の推進向上に大きく貢献してこられました。そのご苦勞と熱意に、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、昨今は少子化、核家族化、都市化、情報化、国際化など日本経済社会の急激な変化を受けて、現代のこども達を取り巻く環境は目まぐるしく変化してきております。その中でも本県は他の都道府県に比べて出生率が高く、総務省統計局によると2022（令和4）年の沖縄県の人口に占めるこどもの割合は16.3%と全国一となっており、こどもに関わる諸問題については、他都道府県以上の積極的な取り組みが要求されております。

県内の小児医療についても2006（平成18）年に県立南部医療センター・こども医療センターが開院し、2016（平成28）年には全国で10番目となる「小児救急救命センター」が認可され、県内で初の小児集中治療室が開設されたこともあり、全国でもトップレベルの医療を受けることが出来るようになり、本県は大変恵まれた医療環境にあると思います。

しかし、「障がいを抱えたこどもたちとその保護者」や小児の「こころの問題」に対する医療的ケアの充実については重要な課題となっており、専門の医師や看護師、心理士、保育士、ケースワーカーの人手不足が懸念されております。

このような状況の中で、小児保健協会が小児保健に関する数多くの事業を行い、地域と密着した事業を展開し多大な成果を収められていることに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

今後も小児保健協会、県、市町村が手を取り合って諸施策の展開に努めていくことが肝要だと考えております。

結びに、これからのこどもたちの健やかな成長を願う責任の重大さを再認識し、今後とも市町村に対するご指導・ご協力をお願い申し上げますと共に、小児保健協会の益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



公益社団法人沖縄県小児保健協会 創立50周年を言祝ぐ

公益社団法人日本小児保健協会 会長
小枝 達也

この度、公益社団法人沖縄県小児保健協会が創立50周年を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。2023（令和5）年7月30日に開催されました祝賀会にお招きいただき、創立から現在に至るまでの歴史について教えていただきました。

沖縄県の戦後復帰とともに発足した沖縄県小児保健協会が、小児科医の先人の方々に導かれ、また沖縄県行政の応援もあって、早い段階から法人格を取得して活動を続けて来られたことは、日本の小児保健活動に取りまして、模範ともいうべきものであります。

活動の大きな柱となっていますのが乳幼児健診事業でして、沖縄県の離島も含めてほぼ全域にわたって、沖縄県小児保健協会がマネージメントをしておられることは、全国の乳幼児健診の状況を見渡ししても、他に類を見ないことです。健診を土日に行っておられることは働く保護者に取りまして誠にありがたいことであり、その実現には小児科医の努力のみならず行政サイドの理解も必要です。戦後長きにわたって占領下にあり日本復帰が遅れたというハンデ、離島が多いという地域的なハンデを見事に克服しておられる沖縄県の全小児科医ならびに行政の方々に敬意を表したいと思います。

いわゆる本土ではそれぞれの地域での歴史的な経緯があって、都道府県全体で一貫した取り組みができていない地域が多いようです。また、若手医師の参加が少なく年に一回の研修会や学術集会が実施できていない地域もあるのが実情でして、子どもと家族の健やかな育ちを見守ることを活動の柱としている日本小児保健協会としましては、忸怩たる思いがあります。

子ども達の健康を家族とともに見守る小児保健の活動の手本として、これからも沖縄県小児保健協会の活動に大いに期待するとともに、50周年を通過点として、沖縄県小児保健協会がますます発展されることを祈念しております。